

令和7年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 船橋習志野 第2教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/11/17~R7/12/5> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/11/17~R7/11/25>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼や終礼に職員間で支援内容の振り返りや話し合いが行われている</li> <li>・運営指導（他拠点の分）や保護者の意見を業務改善につなげている</li> <li>・業務の効率化や改善に向けた取り組みが行われている</li> <li>・職員の資質向上を図るために、研修を受講する機会が確保されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全員で振り返りを実施し、様々な視点で支援に繋がっています。改善案を全員で出し、目標設定を行っています。</li> <li>・事例を出し、期間を定めて支援を行っています。</li> <li>・資質向上のための研修が年内に数回計画されており、定期的に学ぶ機会が設けられています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の目標や個別支援計画を運営会議等で頭に入れながら、日々振り返りをしながら支援を行っています。</li> <li>・資質向上のための研修を形骸化させないため、集団プログラムや児童の個別課題に取り組む際に、研修で実施した内容を組み込むことを検討していきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様の発達段階や特性を把握し、配慮した支援ができています。</li> <li>・活動の目的やねらいを意識したプログラムを作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様一人一人の発達段階を把握し、今必要な支援は何かを考えて支援を実施しています。またそのことについて職員間で共有ができています。</li> <li>・ドットジュニアにおける「5つの療育クラス」に基づき、毎月クルー全員でプログラム案を出し合い、お子様が楽しく参加できる内容を実施できるように工夫しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムについては、お子様から人気があり、楽しみにもしているお出かけやおやつ作りなどのプログラムを多く取り入れることができるように考えていきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全計画に沿って、研修が実施されている</li> <li>・災害時に備えた避難訓練が実施されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は毎月1回、集団療育プログラムにおいて実施しており、災害に備えて定期的に行っています。</li> <li>・けが対応フローチャートに基づき、どの職員であってもすぐに報告・連絡・相談が行える体制を整えています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点で使用しているマニュアル等を周知し、安全面の向上に繋がっていきます。</li> </ul>

弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様に分かりやすく（構造化）、安心して過ごせる環境（物理的・心理的）が整っていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内に視覚的補助が少ない。</li> <li>・教室の構造的に、クールダウンスペースの確保が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、視覚的補助を増やしていきます。</li> <li>・パーテーションを活用するなどして、児童の心理的安全を確保していきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様の活動内容や発達段階に応じたスペース（発達支援室・個別の部屋や場所）が確保されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の構造的に、いくつも部屋を確保するのが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーテーションを活用するなどして、個別に応じた空間確保の工夫をしていきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の支援を行うための人数体制について、支援に必要な人数が確保されていないと感じることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の突発的な欠勤（体調不良等）への対応速度、調整の仕組みに不足がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員体制の見直しや、調整の仕組みを整理していきます。</li> </ul>